

2022年10月12日

東レ名古屋事業場の安全への取り組み概要



名古屋事業場長

ご説明内容

1. 東レの概要
2. 名古屋事業場の概要
3. 安全への取り組み
 - (1)安全成績
 - (2)安全基本方針
 - (3)安全衛生推進体制
 - (4)安全活動事例
4. 今後の課題

ご説明内容

1. 東レの概要
2. 名古屋事業場の概要
3. 安全への取り組み
 - (1)安全成績
 - (2)安全基本方針
 - (3)安全衛生推進体制
 - (4)安全活動事例
4. 今後の課題

会社概要

| | |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 会社名: | 東レ株式会社 |
| 設立: | 1926年1月 |
| 資本金: | 1,479億円 |
| 売上収益: | 1兆8,836億円 (2021年3月期) |
| 連結対象会社: | 283社 (国内103社、海外180社) |
| 従業員数: | 東レ 7,420人 国内連結子会社 10,246人 海外連結子会社 28,601人 計 46,267人 (2021年3月31日現在) |

主な事業内容:



繊維



機能化成品



炭素繊維複合材料



環境・エンジニアリング



ライフサイエンス／その他

東レ理念

企業理念

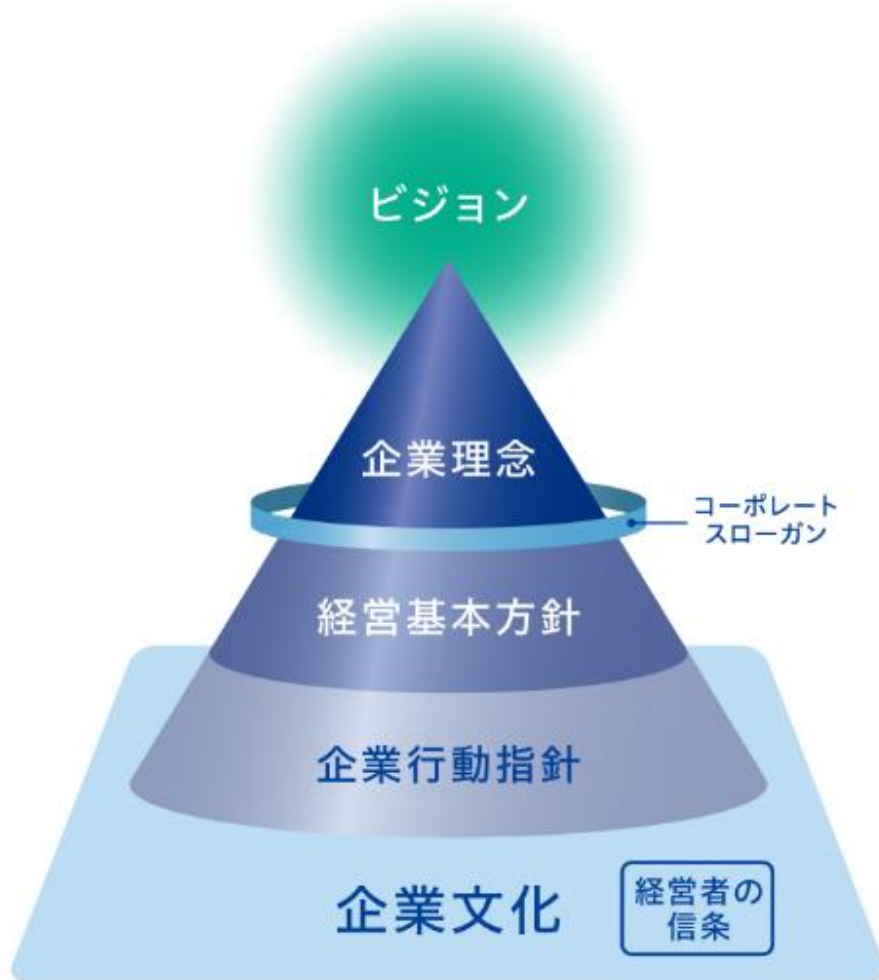
わたしたちは
新しい価値の創造を通じて
社会に貢献します

経営基本方針

| | |
|---------|----------------------------|
| お客様のために | 新しい価値と 高い品質の製品とサービスを |
| 社員のために | 働きがいと公正な機会を |
| 株主のために | 誠実で信頼に応える経営を |
| お客様のために | 社会の一員として責任を果たし 相互信頼と連携を |

企業行動指針

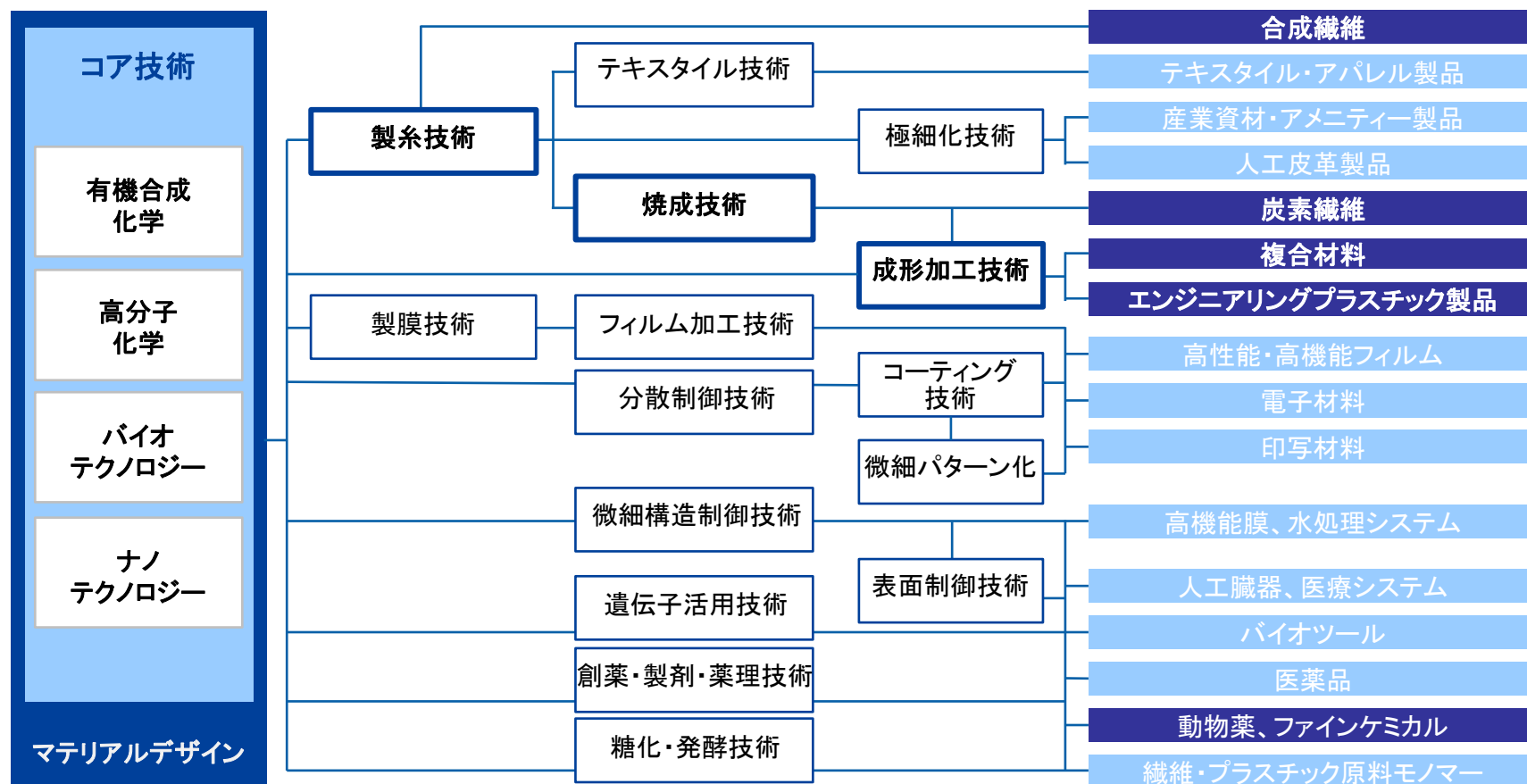
- ◆ **安全と環境**
- ◆ 倫理と公正
- ◆ お客様第一
- ◆ 革新と創造
- ◆ 現場力強化
- ◆ 連携と共創
- ◆ 人材重視
- ◆ 情報開示
- ◆ 人権尊重



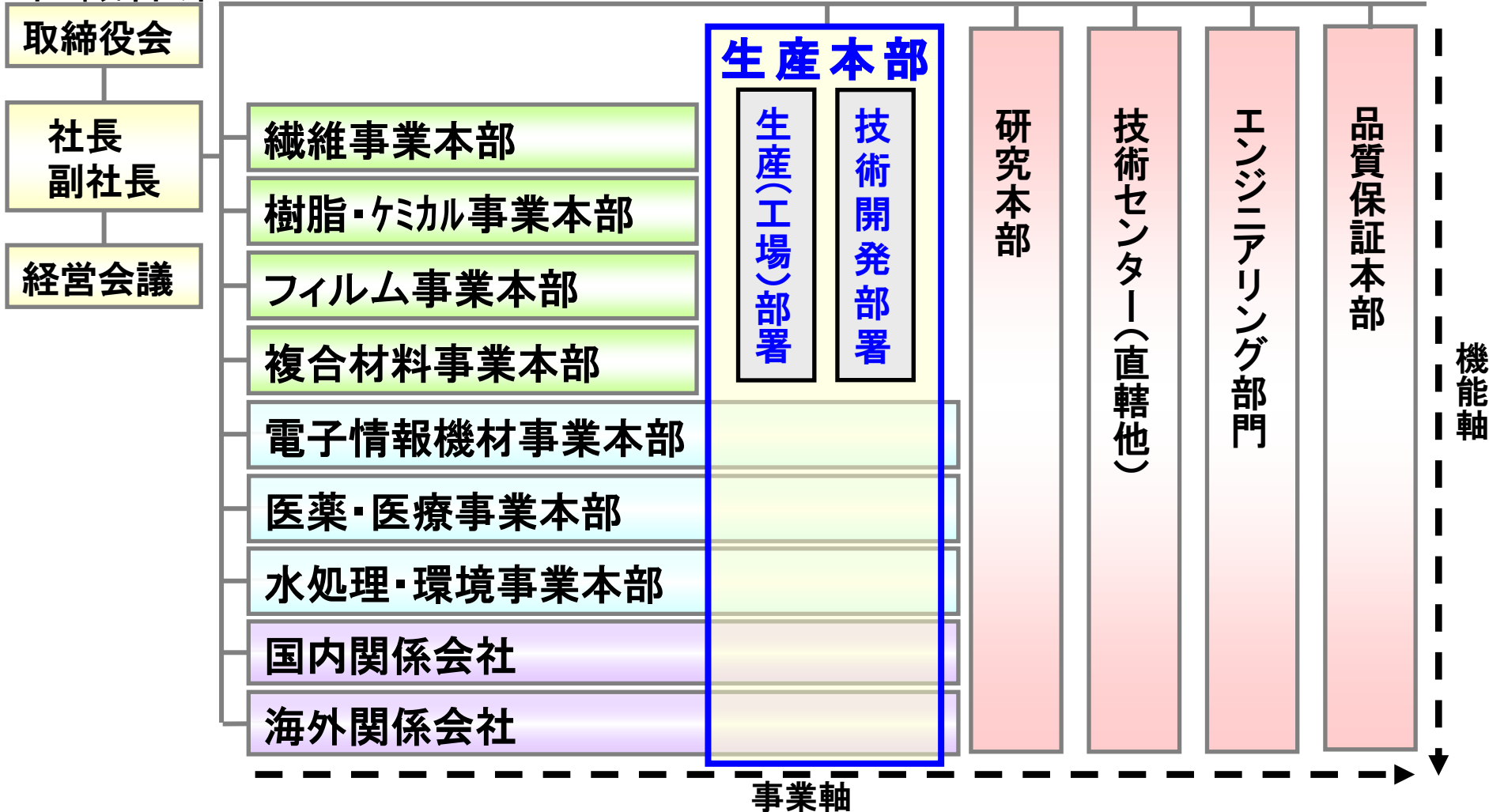
| 東レ理念 |

東レグループの技術体系と製品群

東レのコア技術は、創業以来培われてきた「有機合成化学」「高分子化学」「バイオテクノロジー」であり、これらの技術を発展させながら、繊維からフィルム、ケミカル、樹脂と事業を拡大し、さらには電子情報材料、炭素繊維・複合材料、医薬・医療、水処理事業へと発展を続けてきました。近年新たに「ナノテクノロジー」をコア技術に加え、成長市場へ向けてさまざまな先端材料を開発しています。



組織体系



事業本部/機能本部のマトリクス組織が基本
生産本部は生産・技術領域を統括

ご説明内容

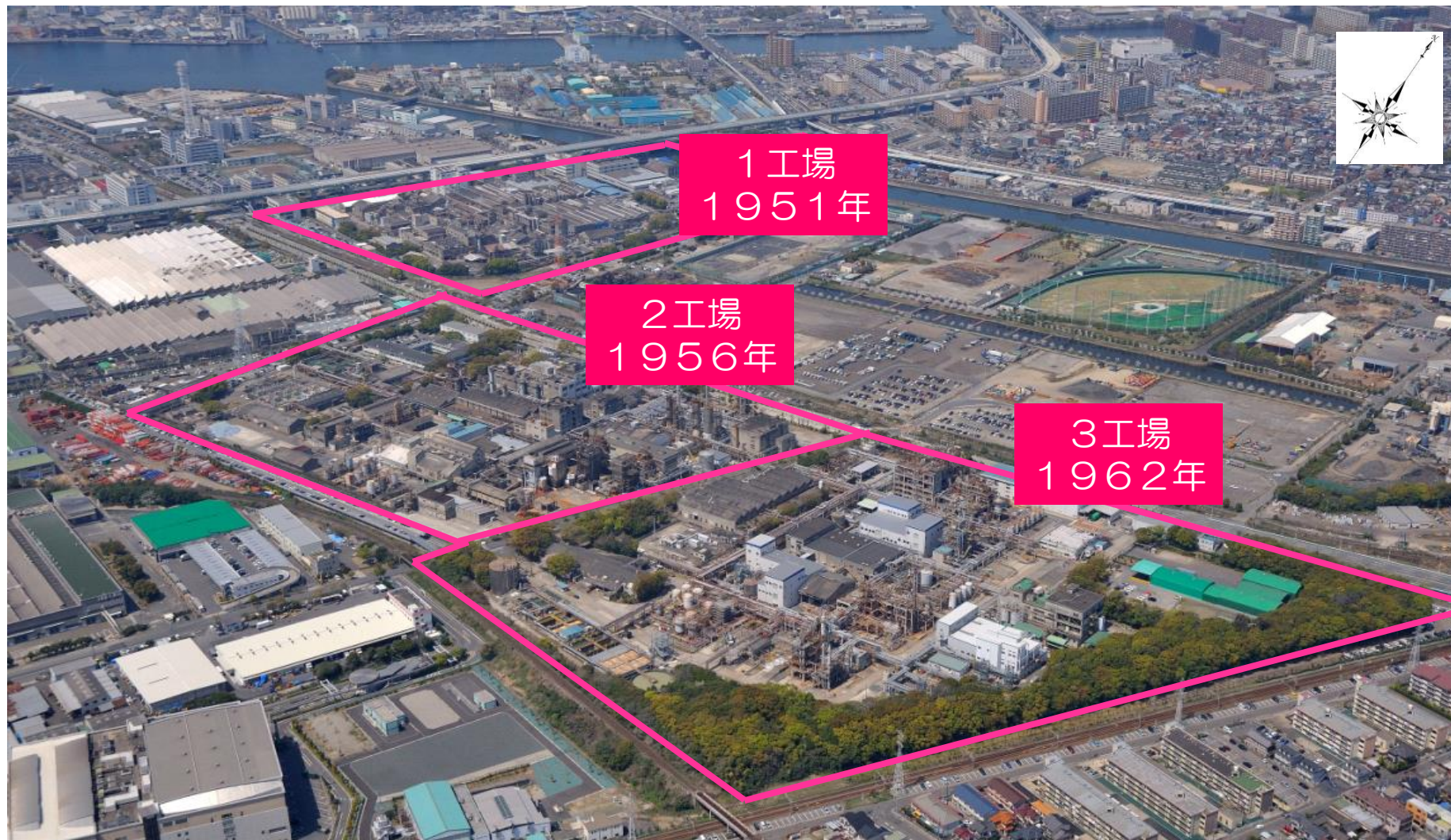
1. 東レの概要
2. 名古屋事業場の概要
3. 安全への取り組み
 - (1)安全成績
 - (2)安全基本方針
 - (3)安全衛生推進体制
 - (4)安全活動事例
4. 今後の課題

東レでの位置づけ

13工場中4番目に設立



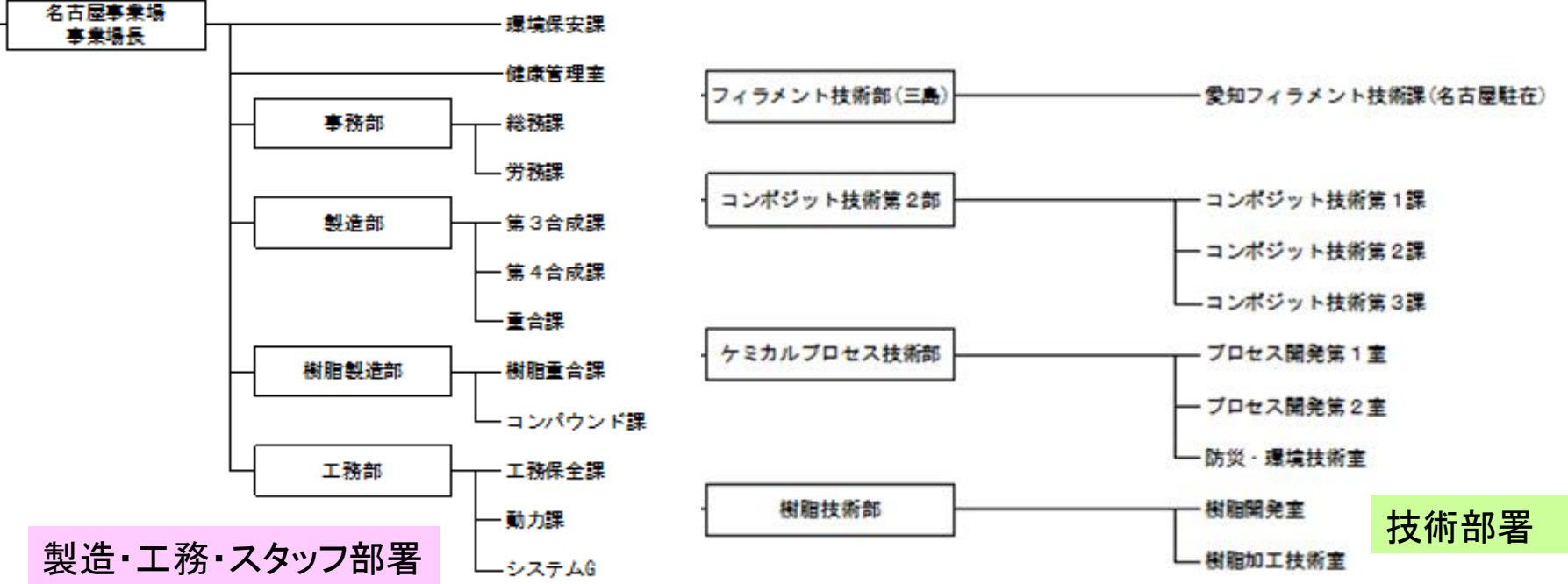
事業場レイアウト(航空写真)



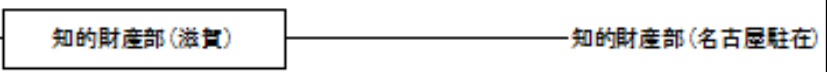
- 所在地 名古屋市港区大江町9番地の1
- 敷地面積 432千㎡（127千坪）
- 従業員数 東レ約600人（場内関係会社・協力会社含め約1,500人）
- 主な生産品 **エンジニアリングプラスチック**
成形用ナイロン6、66樹脂、
ポリブチレンテレフタレート（PBT）樹脂
ポリフェニレンサルファイド（PPS）樹脂
液晶ポリマー（LCP）樹脂
機能性微粒子
ファインケミカル
衣料繊維用ナイロン6、66チップ
- R&D **樹脂技術部、ケミカルプロセス技術部**
化成品研究所、複合材料研究所
環境・モビリティ開発センター
アドバンスドコンポジットセンター

名古屋事業場 東レ組織図（統括：名古屋事業場長）

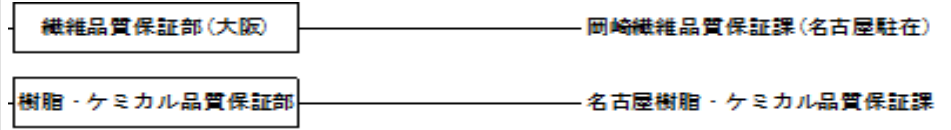
生産本部



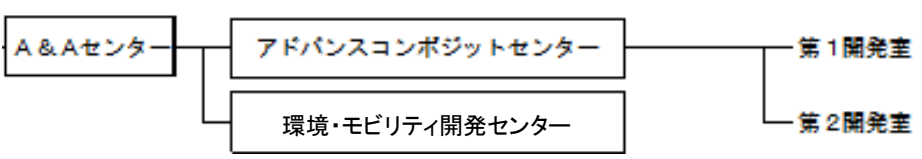
知的財産部門



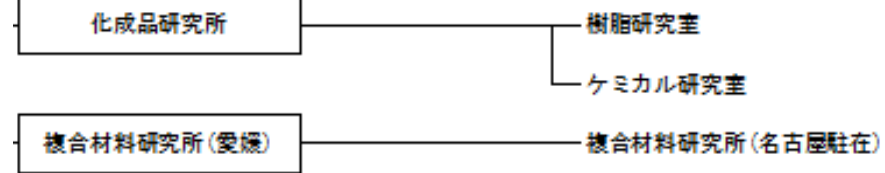
品質保証本部



技術センター



研究本部



- **関係会社** 7社 約500人
- 東レ・デュポン（樹脂・ケミカル）
 - 東レ建設（住宅・エンジニアリング）
 - 東レエンジニアリング中部（ // ）
 - 東レリサーチセンター（情報・サービス）
 - 東レシステムセンター（ // ）
 - 東洋運輸（ // ）
 - 名南サービス（殖産会社）

- **協力会社** 48社 約400人

機械 16社

太田鉄工所、押谷工業
新和工業、東商、
中村組、ニチアス
フジインファニット
前田工業所、丸太運輸
大谷川工業
コブキテクレックス
東洋戸材産業
深田工業
丸三機械建設、宮工業

電気 6社

岡本電気、東海電設
北川電気工業
三和電気土木工事
東洋電機、日本オーチス・エレベータ

建築 11社

伊藤工務店、大津組
加藤建設、北村塗装、サトグリーン
日比野工務店、山盛工務店
小松ウォール中部販売
中央瀝青工業
文化シャッター、横田工管

業務 15社

エムサービス、中日サービス
メイリン、メーキュー、山井
カーク、大進産業
サントリービバレッジサービス
東砺倉庫、東洋運輸
名古屋商事、日本通運
名港海運、明倫運輸
SECOMジャスティック

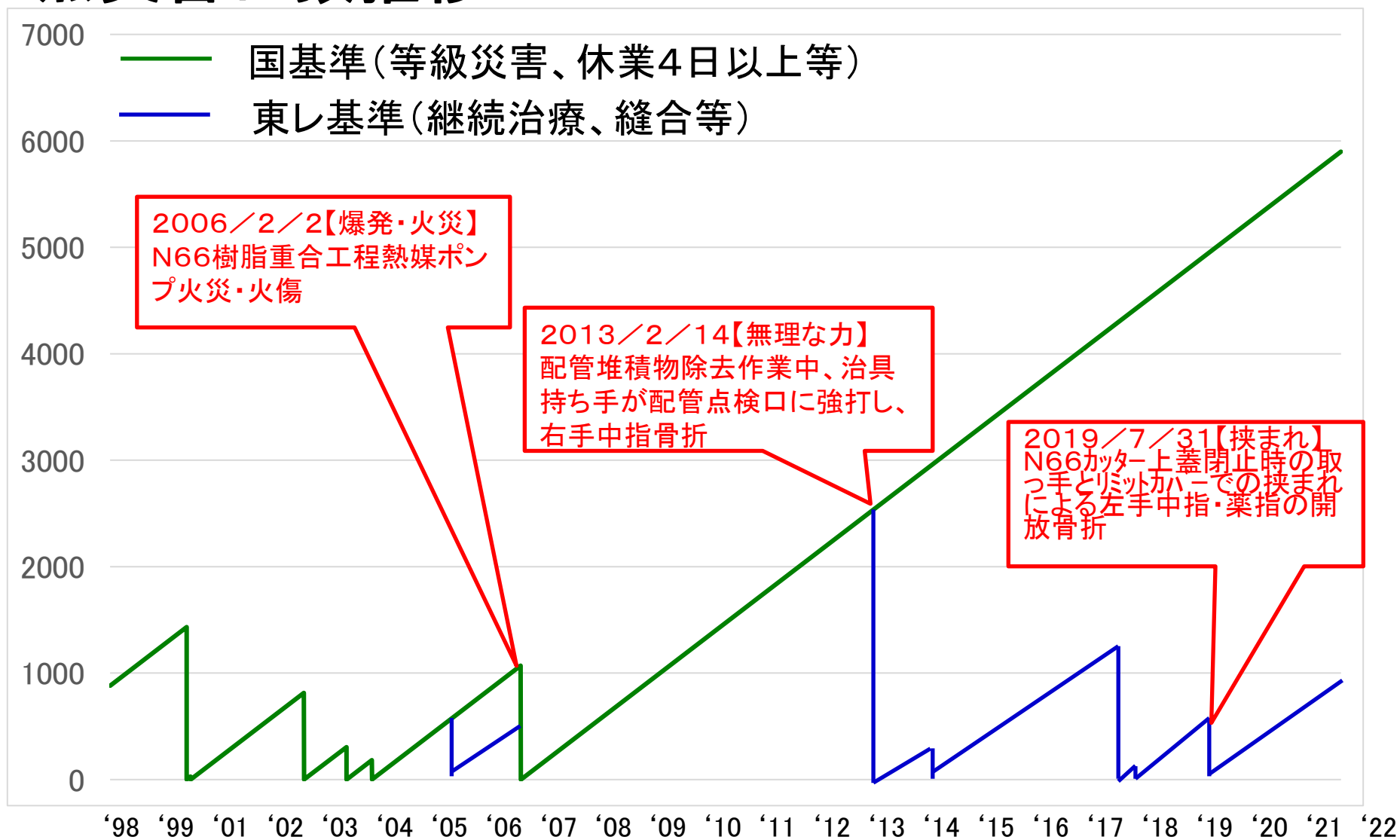
主な安全・防災法規制・所属協議会

- 石油コンビナート等災害防止法(第2種事業所)
名古屋市域石油コンビナート等特別防災区域協議会
- 消防法(危険物製造所、屋外タンク貯蔵所など)
港区危険物安全協会、港区防火管理者協議会
- 高圧ガス保安法(特定製造事業所)
愛知県高圧ガス安全協会
- 労働安全衛生法
愛知労働基準協会、名古屋南労働基準協会
日本ボイラー協会

ご説明内容

1. 東レの概要
2. 名古屋事業場の概要
3. **安全への取り組み**
 - (1) 安全成績
 - (2) 安全基本方針
 - (3) 安全衛生推進体制
 - (4) 安全活動事例
4. 今後の課題

無災害日数推移



企業行動指針

9項目ある指針の中でも一番最初に記載

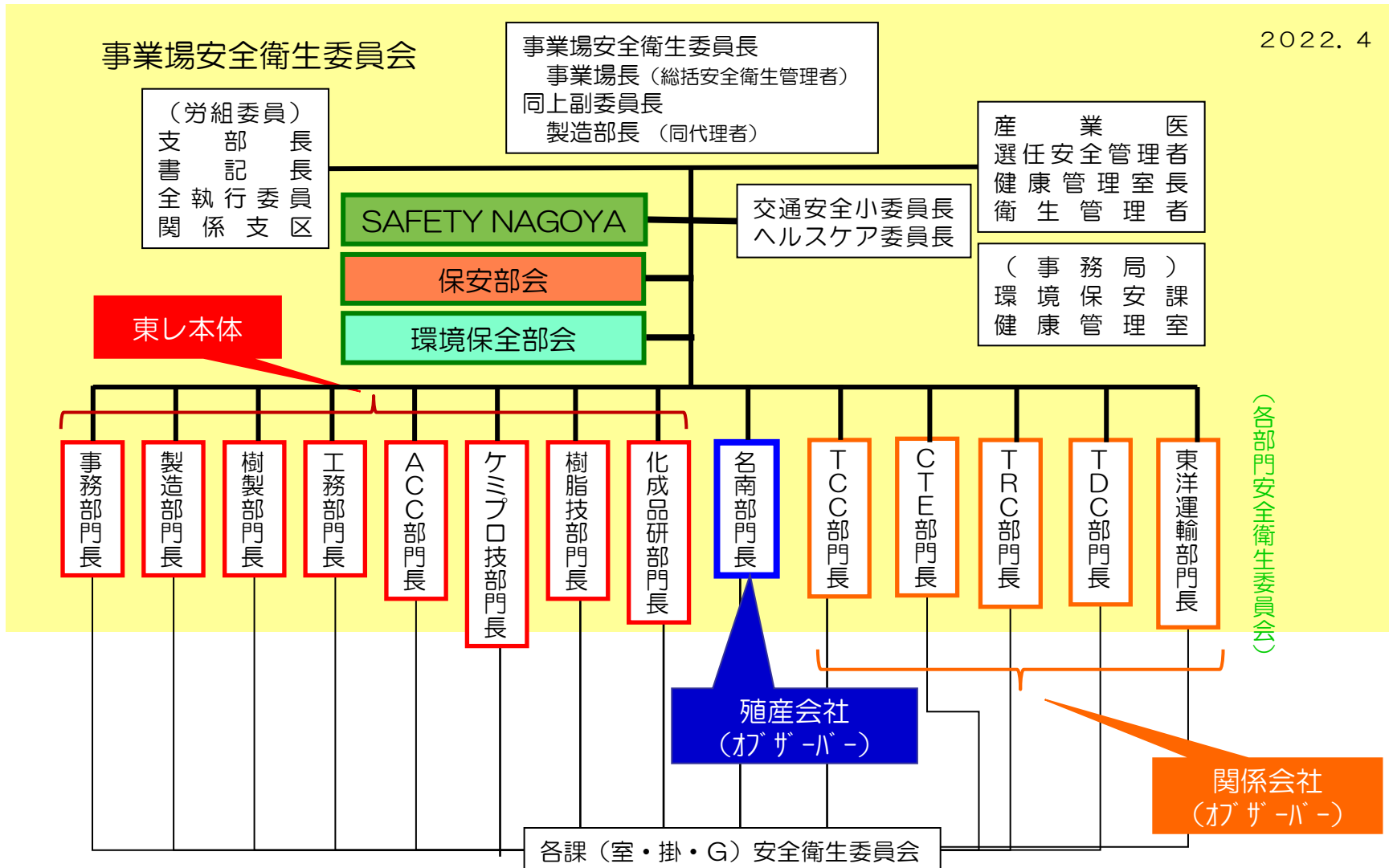
安全・防災・環境保全を最優先課題とし
社会と社員の安全と健康を守るとともに持続可能な社会の
実現に貢献します

2022年安全スローガン

全ての社内会議の最初と最後に指差し唱和

安全最優先 ゼロ災追求 一意識を高め 基本の徹底一

2022. 4



年1回、各部門の「安全・衛生・防災・環境」活動総合査察を実施

技術・研究

スタッフ

製造

工事

事務部門長

製造部門長

樹製部門長

工務部門長

ACC部門長

ケミプロ技部門長

樹脂技部門長

化成品研部門長

名南部門長

TCC部門長

CTE部門長

TRC部門長

TDC部門長

東洋運輸部門長

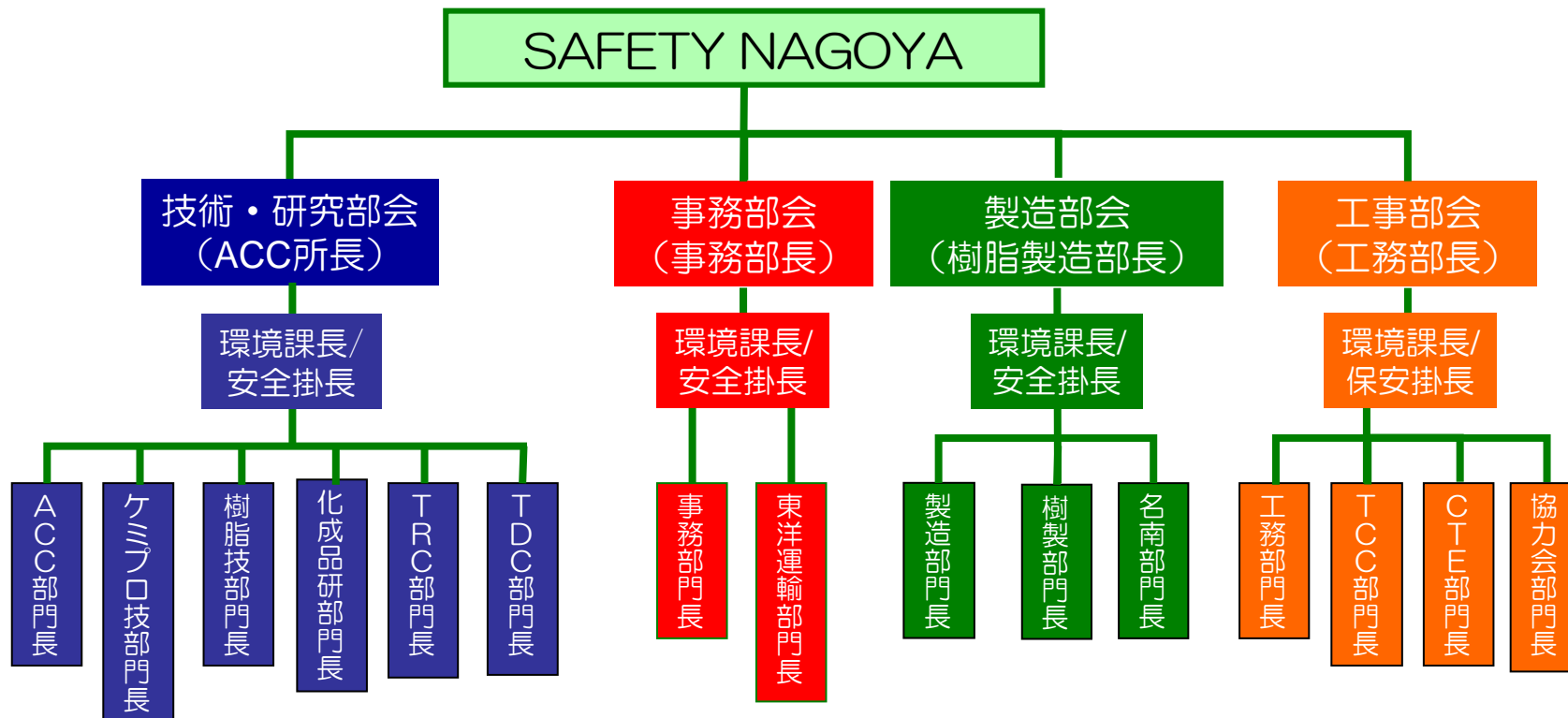
協力会（業務系）

協力会（電気系）

協力会（機械系）

協力会（建築系）

技術・研究、事務、製造、工務の職種に応じた4部会で、
構内関係会社・協力会社を含めた安全活動を展開中



| | | | | |
|----|------------------|------|---|---------|
| S | : Science | (科学) | → | 技術・研究部会 |
| A | : Administration | (管理) | → | 事務部会 |
| F | : Factory | (工場) | → | 製造部会 |
| E | : Engineering | (工学) | → | 工事部会 |
| TY | : TORAY | | | |

安全メッセージ

毎月、第1月曜日は安全の日

安全衛生委員会開催時間帯(午前中)の出張、他会議は原則禁止

委員会の冒頭で事業場長が直接伝達

2022年 2月度安全衛生指示事項

安全衛生委員長



I. 委員長指示事項

1. 1月度、東レGで5件(+統計外4)の災害発生。うち2件は凍結路面での転倒災害です。昨年、名古屋では降雨時に屋外での転倒災害が発生していますが、日常行動も含め、あらゆる行動における安全最優先の徹底、安全の基本・ルールの順守によってゼロ災を継続しましょう。
2. 国内東レGでの新型コロナ新規感染者数は1月に急増。ご家族など身近な人の感染をきっかけに陽性が判明するケースが多く、第5波までと異なり職場内での感染も散見されます。オミクロン株の特徴として軽症がほとんどであり、どこに感染のきっかけがあるかわからないため、これまで以上にガイドラインに沿った基本行動と感染拡大防止策(食事・喫煙中の会話禁止、長時間・対面会議を避ける等)の徹底をお願いします。
3. 今年は既に5件の交通事故・HHTが発生。避けようがないケースもありますが、かも知れない運転による慎重な周囲の確認、歩行者・自転車保護、他のドライバーへの注意喚起を实践願います。路面が凍結する可能性のある冷え込んだ日の運転は、スピードを控えめに、車間距離を十分取って運転するよう心掛けましょう。

安全メッセージ

名古屋事業場 安全掲示板

目標 : 協会社社含めた完全無災害の必達

スローガン: 安全最優先 ゼロ災追求 - 意識を高め 基本の徹底 -



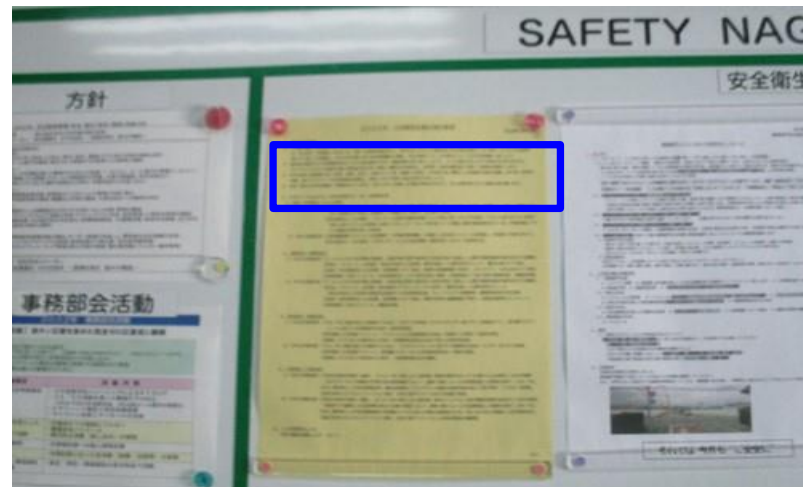
3月度 安全衛生委員長指示事項 (クリック)

- 2月度の東レG災害は1件、今年は累計6件(前年同月比-3件)ですが、統計外を加えた件数(災害6+統計外7)は前年(災害9+統計外3)を上回り、依然厳しい状況です。海外では階段を踏み外し、体を支えようとして肩を脱臼する災害が発生しています。どこにでも危険が潜んでいることを認識し、あらゆる行動における安全最優先の徹底、安全の基本・ルールの順守によってゼロ災を継続しましょう。
- 愛知県の新型コロナ新規感染者はようやく減少傾向ですが、感染者数は未だ多いことから、どこに感染のきっかけがあるかわかりません。ガイドラインに沿った基本行動と感染拡大防止策(食事・喫煙中の会話禁止、長時間・対面会議を避ける等)の徹底をお願いします。
- 今年は既に交通事故3件(加害、被害、双方)、交通HHT3件(物損)が発生。かも知れない運転による慎重な周囲の確認、歩行者・自転車保護、他のドライバーへの注意喚起を実践し、事故・HHT発生に歯止めをかけましょう。
- 全国「春の火災予防運動」が展開されています。まだしばらく乾燥した季節が続きますので、防火対策を抜けなく確実に実行願います。

事業場情報システムへの掲載



本館エントランスモニターへの掲示



各職場の安全掲示板に最新版掲示

安全大会

所轄労働基準監督署長をお招きしコロナ禍でも毎年実施。

- 事業場長訓示
- 労働組合支部長挨拶
- 労基署長ご講話
- 安全表彰(無災害記録、ポスター、標語)
- 安全宣言



安全活動方針

2021年「安全・衛生・防災・環境」事業場活動方針

主な重点活動項目

<安全>

1. 3S／5S活動を通じた職場モラル向上(持続のための仕組み作りとその実践)
2. 管理職による現場パトロールでのコミュニケーション活性化(その場で褒める、注意する)
3. 安全の基本遵守(特に異常時の「止める、呼ぶ、待つ」を徹底)
4. 職場リスクに応じた類似災害防止の深化(本質原因からの話し込み)

<衛生>

1. 新型コロナウイルス感染防止対策の実行
2. メンタルヘルスマネジメントの充実・強化
3. 化学物質管理の徹底(曝露防止対策の徹底、化管法改正への確実な対応)

<防災>

1. FPプロジェクトPart II 活動の充実(FPチェックリスト活用、変更管理・工事安全管理の徹底)
2. 類似火災事故防止活動の推進
3. 大規模地震発生時の対応強化(耐震補強推進／大規模地震・津波対応訓練等)

<環境>

1. 類似環境事故撲滅活動推進と排水監視強化(計画立案)
2. サステナビリティ・ビジョンの推進
 - (1) チャレンジ30プロジェクトの推進(温室効果ガス排出量削減など)
 - (2) プラスチックペレット・チップ等漏出防止対策の推進


毎年事業場活動方針を作成、これを受け各部会がブレークダウンした活動を展開

各部会の重点活動項目(抜粋)

| 部会 | 重点活動項目 |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 技術・研究部会 (ACC所長) | 管理職現場パトロールによる職場活性化 Good Point/指摘件数/対策完了件数/参考事例を指定DBに入力 安全基本ルールの遵守 部署間相互査察、新設・改造設備スタート前安全査察の実施 |
| 事務部会 (事務部長) | 一人ひとりが安全考動徹底 4R危険予知トレーニングによるKYカUP 部員層・主任層を核とした安全意識改革 類災検討フォーマットの検討・実践 |
| 製造部会 (樹製部長) | 3S/5S活動を通じた職場モラル向上 『かたづけ思考』の実践による職場モラル向上 安全の基本遵守 『止める・呼ぶ・待つ』の振り返りと実践すべき事例の共有化 |
| 工事部会 (工務部長) | 安全の基本の周知・徹底 工事安全基本ルールの遵守徹底とパトロールでの現場確認 GL層を核とした安全意識改革 最終版を用いた類災検討の話し込みを全員が腑に落ちるまで実施 |

部会の特徴を考慮し活動重点化

各部署ともに同様のフォーマットに沿って話し込みを実施

| | |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 災害名称 | 梯子から体を左に向けながら降りた2歩目で右足首を挫いて骨折 |
| 発生日時 | 2020年12月27日 08時00分 |
| 発生場所 | 東レ愛媛工場 繊維製造部 テトロン重合課 |
| 災害概要 | <p>梯子の最下段に両足を乗せて圧力計を確認後、体を左に向けながら降りた2歩目で右足首を挫いて骨折</p> <p><作業内容> * 圧力計と圧力計を点検し、予備重合槽の圧力計を点検</p>  <p>①: 梯子の最下段に昇り、懐中電灯を使用して圧力計の目視点検を行った。 ↓ ②: 点検が終わる、直前に戻るため体を左に向けながら降りた2歩目で右足首を挫いて骨折した。</p> |
| 話し込み実施日時 | 2021年2月15日 16:00 ~ 16:30 (実際時間を記載) |
| メンバー | 重合課生産掛 [redacted] |
| 災害のキーワード (安全担当) | 氏名: 課員1、課員2、課員3、課員4、課員5、課員6、課員7、課員8 足下の確認不足、日常行動に対するKY不足、適正保護具の不備、身体的な癖 |
| 災害から得られた教訓 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 段差の無い場所でも足を挫くことがある。 ・ 自分の体の癖を理解し、対策をとり作業しないと災害を起す危険性がある。 ・ 体の向きを変えながら降りると足を挫く危険性がある。 ・ 保護具などの使いにくいものがあれば上司に相談する。 ・ 可能であればサル梯子から階段化への安全対策をとる必要がある。 |
| 自部署への展開 | <p>類似作業名、具体的作業手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ N66 重合缶オイル点検 ・ サル梯子に登る→オイル点検→サル梯子を降りる。 <p>注意するポイント (ソフト対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正面を向いてサル梯子を昇降する。 ・ サル梯子昇降時は足元の安全確認を実施する。 ・ 梯子の下付近に段差がある場合は注意喚起表示を行う。 |
| 改善対策案 有・無 (ハード対策) | ・ 梯子の下は80cm四方のエリアを確保する。 |
| 深堀からのチーム行動宣言 (決めたことは守る) | ・ サル梯子昇降時は足元の安全確認を行い、正面を向いて昇降する。 |
| 個人安全宣言 | <p>課員1: 梯子昇降時は、安全帯を着用し足元の安全確認を徹底します。</p> <p>課員2: 梯子昇降の際は正面向きに降りきってから移動方向へ体を向けます。</p> <p>課員3: 架台を降りるときは、床面の確認を必ず行います。</p> <p>課員4: 梯子昇降時は、足元の確認を徹底します。</p> <p>課員5: 梯子昇降時は、足元確認し正面を向いて昇降する。</p> <p>課員6: 梯子の昇降は、梯子に対して正面を向き慎重に行います。</p> <p>課員7: 梯子の昇降時は足下を確認してから行動します。</p> <p>課員8: 梯子から降りる際は足元の安全を確認します。</p> |

①事例選定
災害連絡書最終版から各部署で選定

②概要
状況をイメージし易い様に写真等を活用

③災害からの教訓
どういう背景か?
例) 時間的要因、多重作業
経験不足・・・等

④自職場への展開
自部署作業の具体的にどこに該当?
注意ポイントは?などを要
点に話込

⑤個人自己宣言
現場でのKYに役立てる

全員に周知・記憶に残る仕組みの強化 実施例 1

| | |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 災害から得られた教訓 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイント部の接続・固定確認を徹底する。 ・異音・異常を感じたら機器を停止し放置しない。 ・作業方法は作標に記載するとともに、チェックリストを作成し作業確認を行う ・常設可能な部分は常設し仮設をなくす。 |
| 自部署への展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・レシプロ化学洗浄 ・ファーマナイト施工 ・エア配管とのジョイント（カブラ・ホースバンド全般）作業 ・工事環境設定での仮設ホース設置作業 ・消火栓ホースなど圧力高いものを取り扱う作業全般（消防訓練） ・バキューム車での作業 <p>注意するポイント（ソフト対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイント部の接続確認徹底 ・ジョイント作業が発生する際は作業標準書 |
| 改善対策案 有・無 (ハード対策) | 無 |
| 深堀からの チーム行動宣言 (決めたことは守る) | <p>非定常作業時は作業内容を手順化し確認できるリストを作成しチェックを行う</p> <p><i>必ず必ず詳細に確認して必ず標準書を作成下さい。 OK</i></p> |
| 個人安全宣言 | <p>立岡：ホース接続は外れることを想定し急に圧力をかけない。</p> <p>澤田：ホース接続部は、確実に固定されたか確認を必ず行う</p> <p>山岡：ホース接続は外れることをKYし確実に固定する。</p> <p>竹野：常設必要な設備はなるべく常設化し仮設を無くす。</p> <p>竹山：ジョイント接続部の確認を徹底し外れないよう対策する。</p> |

**課長コメント記載後の各G
話し込み結果を全員に回覧**

| | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 掛長 | 安全担当 | 課長 |
|  |  |  |

全員に周知・記憶に残る仕組みの強化 実施例 2

| 重合課類似作業 | 類似作業 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---------|----------------------------------|-----------------|---|---|---|---|
| | | 頭上配管のフランジ締め付け作業 | ○ | | | |
| | N66 カッター清掃 | | ○ | | | |
| | N6 引取ローラーガット巻付除去 | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | N66 手動吐出 | | | | | ○ |
| | N66 カッター-団子噛込み除去作業 | | | | | ○ |
| | N6 口金清掃 | | | | | ○ |
| | | | | | | |
| 各G教訓まとめ | 項目 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | 遊び手に耐切創手袋を着用していなかったため切創した。 | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 教育が未実施であったため、危険感受性が不足していた。 | ○ | | | ○ | |
| | 頭上で工具を使用すると落下の危険がある。 | ○ | | | | |
| | 作業標準書のない作業は、災害が発生する可能性が高い。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 作業経験が浅く、添え手(左手)に対する切創リスクを軽視していた。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 見た事も、経験した事もない初めての作業であった。 | | ○ | | | |
| | 走行糸にノッターが触れるような作業を行った | | | ○ | | ○ |
| | ルールを破ることに対する危険性を教育出来ていなかった | | | ○ | | |
| | 左手がノッターから離れる作業のため、左手の保護が不十分であった | | | | | ○ |

類似作業・教訓について各組結果を整理、気づけていないポイントをフィードバック

話込みで終わらず、ポイントのすり合わせ、気づきの底上げに重点を移して活動を継続。

ヒヤリ・ハット共感評価集計による重点課題抽出

安全担当者の悩み

ヒヤリ・ハットはたくさん出るが、限られた資源の中でどれを優先して改善するかが難しい……。



全ヒヤリ・ハットを部署
通路に掲示し、
「自分も体験した」など
共感できるもの
に投票する仕組みを
開始。
投票権は部署全作業者。

全員参加で最大公約数の対策をとることで、「やらされ感」から
「納得感」のある活動へ変化

3S/5Sによるモラル向上(製造部会の事例)

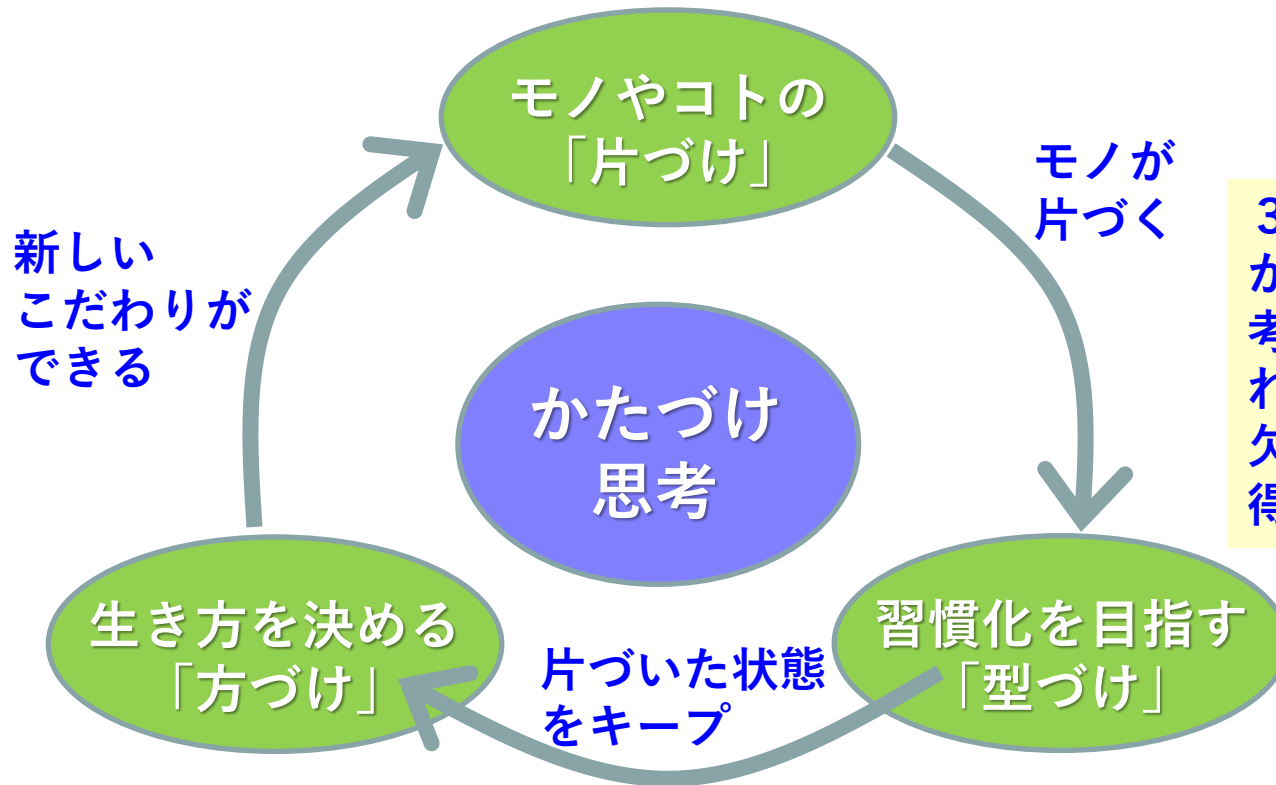
組合員層からの提案により、2020年より「かたづけ」の概念を導入

Stage① 「片づけ」 : モノを減らしてリセットする

Stage② 「型づけ」 : 理想の職場環境を維持する仕組みを作る

Stage③ 「方づけ」 : ワークスタイルの方向づける

小松 易 著
『「かたづけ思考」こそ最強
の問題解決』
(PHP研究所、2018年)



3つのかたづけのサイクルが回ることで、かたづけ思考が身につく、機能し磨かれていく。どれか一つが欠けてもかたづけ思考は習得できない。

3S/5Sによるモラル向上(製造部会の事例)

「かたづけ」実践報告

摘出：2019-12-02

担当：具志 清貴

場所：TN 4 原料エリア2階 | 課題：原料ドラムの歩行動線干渉

目標：【安全化】歩行動線の拡張、【コスト】歩行動線の障害による迂回

現状

改善後(あるべき姿)



①片づけ

必要最小限のドラムを原料ホッパー近傍に置き、残りは歩行動線外の置き場へ移動。

2019-12-02
担当：日勤、具志

②型づけ

新規の置き場を区画化し作業員へPR実施。歩行動線の拡張に寄与。

2019-12-02
担当：日勤、具志

③方づけ

古いこだわり：過去に決めた置き場を使用。
新しい生き方：通路の見た目にもこだわり、使用しない原料は通路には置かない。

2019-12-02
担当：日勤、具志

かたづけ」を発展させる



管理職によるパトロール(技術・研究部会の事例)

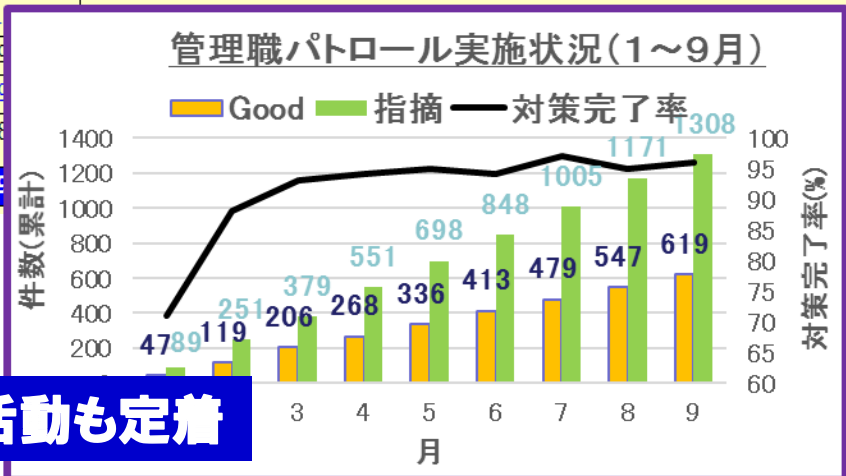
➤【行動目標】 その場で、**[注意+褒める]** ⇒ DB上で、**[フォロー+共有化]**

褒める 注意する 積み残しゼロ

| 6月 | ① Good Point件数 | | ② 指摘件数 | | ③ 対策完了件数 | | 累計完了率 (B)/(A) (%) |
|---------------------|----------------|------------|------------|------------|------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 月別 | 年間累計 | 月別 | 年間累計 (A) | 年間累計 (B) | | |
| 部署 | | | | | | | |
| FY技部 | 毎月、活動結果をDBに記入 | | | | | | 96 |
| ACC | | | | | | | 100 |
| コパ [®] 技2部 | 0 | 3 | 5 | 53 | 53 | | 100 |
| コパ [®] 技1部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 (コパ2部と統合。4月末時点で指摘に対する対策完了) |
| TRC | 1 | 28 | 28 | 82 | 71 | | 87 TRC鎌倉で発生したヒヤリハットを受けて、床置きコンセントがないか一斉調査を実施し |
| 品証課 | 2 | 10 | 9 | 19 | 15 | | 79 樹脂：5/31 掲示物1件、3S関係1件、指摘2件 6/8 掲示物3件、3S関係1件、保安機器維持管理(懐中電灯)1件指摘 ケミ：掲示物2件、備品管理(ドア取っ手不良)1件、保安機器維持管理(懐中電灯)1件指摘 パトロール時に事前KY内容を確認 |
| AMC | 15 | 65 | 11 | 80 | 79 | | 99 |
| 化成品研 | 18 | 68 | 15 | 96 | 94 | | 100 |
| TDC | 15 | 98 | 10 | 81 | 75 | | 92 |
| ケミ [®] 技部 | 10 | 43 | 30 | 233 | 225 | | 97 |
| 樹脂技部 | 14 | 75 | 17 | 77 | 64 | | 83 |
| 6月集約 | 78 | 414 | 144 | 843 | 792 | | 94 |

10単位

参考事例を特記活動として記載



技術・研究部会 (パトロールDB) から抜粋

- 1~9月累計で、
- ✓ Good Point 619件
- ✓ 指摘件数: 1308件(対策完了率96%)
- ✓ Good Point/指摘件数比=47%

→褒める活動も定着

管理職によるパトロール(技術・研究部会の事例)

パトロールと併せて「一緒に指差し呼称」活動

<実施風景>



- ✓ 管理職は輪番制で、作業者をその場で選ぶ。
- ✓ 実験表示カードで作業内容を確認する。
- ✓ 危険のポイントなど、**対話を行う**。
- ✓ 管理職と作業者で、『**一緒に指差し呼称**』する。

実験表示カード

| | |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 実験名 | 連続重合反応 (アクリロニリル、アクリル酸メチル、メタクリル酸) |
| 担当者 | 石川 |
| 実験日 | 2021年 5月26日～6月30日 |
| 条件 | 60℃、攪拌 アクリロニリル: 変異原性物質 アクリル酸メチル: がん原性物質 |
| 危険のポイント | ・反応液(60℃)による火傷 ・有害薬品被液による薬傷 ・有害薬蒸気による健康被害 ・回転体(攪拌機)接触による巻き込まれ |
| 保護具 | ・保護眼鏡、軍手(高温時) ・耐切創手袋、ラテックス手袋(ニリル不可) |
| 指差し呼称 | 手袋着用 ヨシ! ドラフト閉止 ヨシ! 装置組み立て時 回転体オフ ヨシ! 機器異常時: 攪拌機、ヒーターオフ (分電盤:L1-2-6) |
| 異常時の対応 | 反応暴走時: 重合停止剤投入 皮膚に付着した場合は、 すぐに石鹸と大量の水で洗浄する |

構内協力会社の安全(工事部会の事例)

本気度を伝えるための面と向かった指示：FACE TO FACEの安全指示



○概要

- ・4回/年開催(時間は15分程度)
- ・参加メンバー: 工事部会全員
(全協力会員)
- ・工務部長、各部署長からの安全訓示

○訓示内容

- ・東レおよび関係会社で発生した災害の教訓
- ・自工場の最新トピックス

○必要であれば臨時安全集会開催(6月)

- ・工事部会のメンバーが連続して被災
- ・工事車輛におけるHHTが2件発生

構内協力会社の安全(工事部会の事例)

部会合同工事パトロール(問い掛け・対話・傾聴)(2回/週)



協力会員も参加したパトロール



本音を聞く



作業者への声かけはその場で



すぐ是正

TN-25-4

【誉める文化を醸成】
SP(ストロングポイント)は状況の写真を添付

| | |
|---------------|------------------------------------------------|
| 工事名称 | 樹脂ナイロン重合建屋地震対策工事 |
| 指摘・SP・コメント選択! | ② |
| SP | 防護対策(空調管理や防護マスク着用)が出来ており、資材収納棚は速く綺麗に整理整頓されていた。 |



改善・是正報告

【水平展開】
資材の仮置き整理・整頓の良い事例

※SPについて
入不委。工事責任者捺印後
却のこと。

| | | | |
|------------------------------------------|-------|---------|------------|
| 提出日 | 年 月 日 | 工事会社責任者 | 印 |
| 提出ルート パトロール者→発注会社→工事会社→発注会社→GTE保全専業部長 | | | 受 理 (発注会社) |

上から目線のパトロールではなく、全員が一体となった活動

安全・防災教育

名古屋事業場教育体系

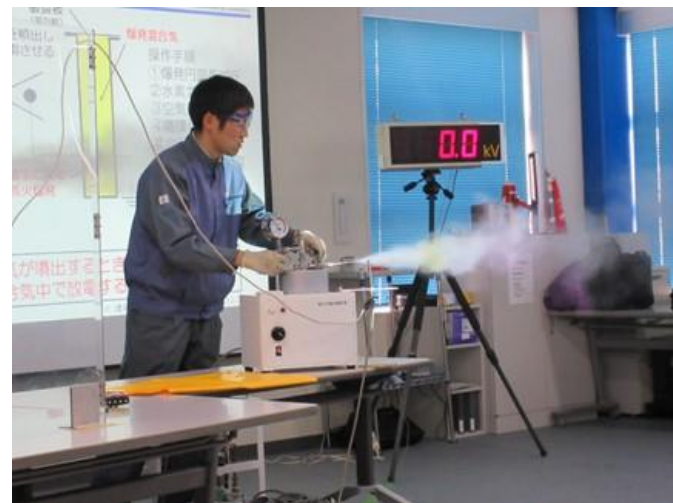
| 資格 | | 新入社員層教育 | 若手層教育 | 中堅層教育 | 主任・GL層教育 |
|-----|-----|---------|-----------------|------------------------|---------------|
| G 3 | S 6 | | | | ⑨ 名古屋マネジメント研修 |
| G 2 | S 5 | | | | |
| G 1 | S 4 | | | ⑧ STC マネジメント | |
| | S 3 | | | ⑦ バイザーカレッジ 名古屋スーパード | |
| | S 2 | | ③ 保全道場 | ⑥ リーダー STC | |
| | S 1 | ① 教育導入 | ② アップ教育 フォロー | ④ 安全意識向上研 | ⑤ ヤング STC |

⑪ (GKS)
現場力強化スクール

⑩ 職長教育

安全・防災教育

教育体系以外の特別教育①



危険体感教育

爆発デモンストレーション教育

安全・防災教育 教育体系以外の特別教育②

火災発生時の工場間応援体制・組織作り(「特定消防隊員」の育成)
夜間勤務のある部署を対象に各勤務1名選抜き教育(1年間)

各部署各組のメンバー

| 部署 | 組 | 氏名 | 組 | 氏名 | 組 | 氏名 | 組 | 氏名 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 第3合成課 | 1組 | A氏 | 2組 | A氏 | 3組 | A氏 | 4組 | A氏 |
| 第4合成課 | | B氏 | | B氏 | | B氏 | | B氏 |
| 重合課 | | C氏 | | C氏 | | C氏 | | C氏 |
| ナイロン重合掛 | | D氏 | | D氏 | | D氏 | | D氏 |
| コンパウンド課 | | E氏 | | E氏 | | E氏 | | E氏 |
| 名南S(NC-1) | | F氏 | | F氏 | | F氏 | | F氏 |

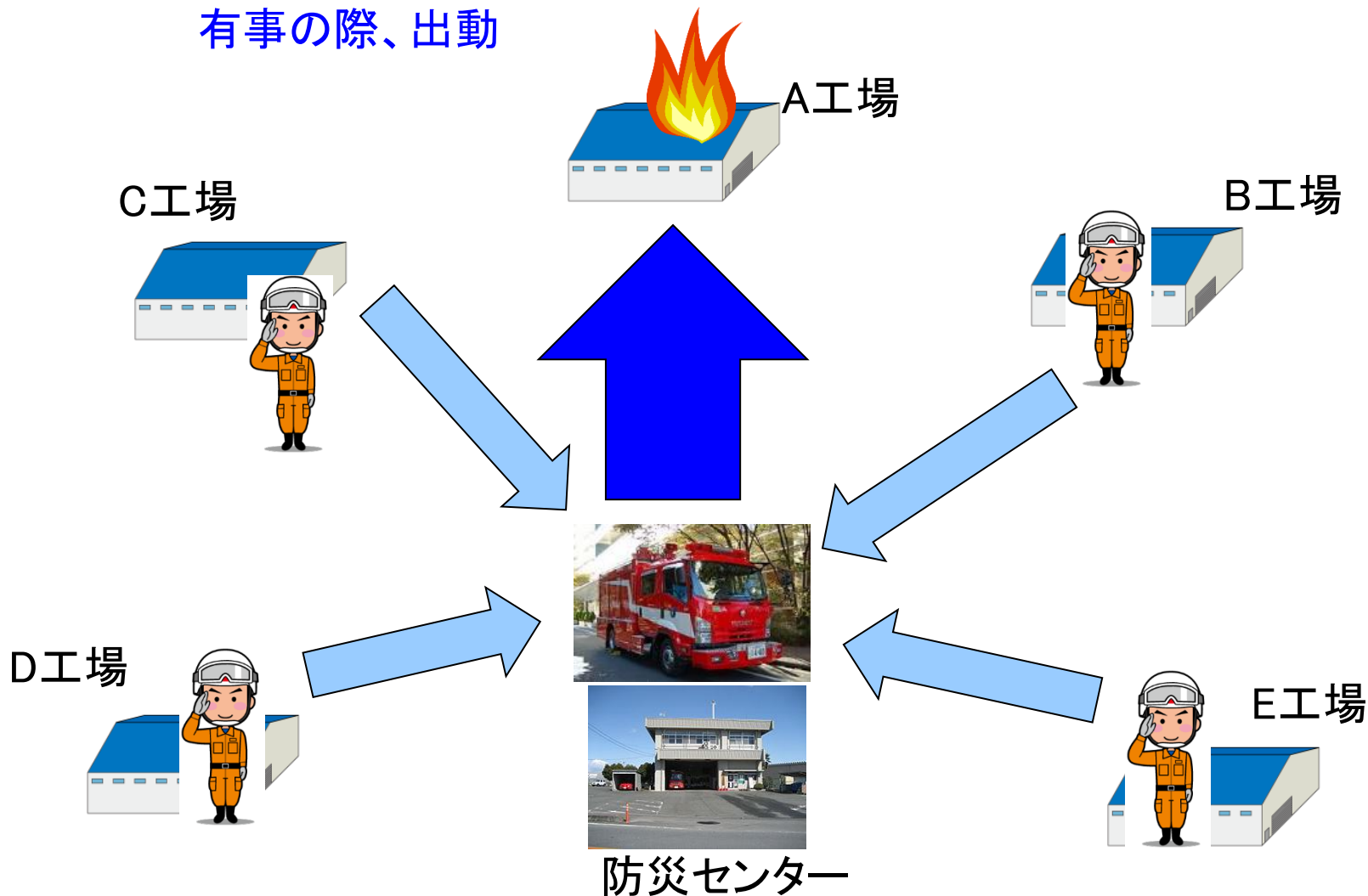


教育カリキュラム

| | |
|-----|-------------------------------|
| 6月 | 特定隊員についての概要、訓練礼式、防災資機材取り扱い等 |
| 7月 | 屋外消火栓基本操法及び屋外給水栓取り扱い等 |
| 9月 | 甲種化学車の装備品、基本操法概略 |
| 10月 | 防災資機材全般の取り扱いおよび、配置場所確認 |
| 11月 | 屋外消火栓基本操法、屋外給水栓の取り扱い等、先行訓練の復習 |
| 12月 | 化学消防ポンプ車の取扱いおよび、基本操法 |
| 1月 | 屋外消火栓基本操法の応用、特定隊員緊急招集訓練 |
| 2月 | 化学車基本操法① |
| 3月 | 化学車基本操法② |
| 4月 | 化学車基本操法総合および、机上理解度考査 |

安全・防災教育

教育修了後の1年間を特定消防隊員として活動
有事の際、出動



安全・防災教育(近隣地域・企業との連携)

- 名古屋市域石油コンビナート等特別防災区域協議会
 - ・3社協定締結会社(東レ、三井化学、東亜合成)
 - ・2回/年訓練実施
- 愛知県高圧ガス安全協会コンビナート部会
 - ・事故事例・事故防止研究会
- 愛知県消防学校自衛防災組織員教育懇話会
 - ・自衛防災要員等教育科



ご説明内容

1. 東レの概要
2. 名古屋事業場の概要
3. 安全への取り組み
 - (1)安全成績
 - (2)安全基本方針
 - (3)安全衛生推進体制
 - (4)安全活動事例
4. 今後の課題

構内協力会社での日常行動災害

| 年 | 災害名 | 休／不休 | 起因物 | 事象 |
|------|---------------|------|-----|----|
| 2020 | 階段踏み外し左足首骨折 | 不休業 | 階段 | 転倒 |
| 2020 | 寮廊下転倒左膝骨折 | 休業 | 通路 | 転倒 |
| 2021 | 建屋入口転倒左膝蓋骨骨折 | 休業 | 通路 | 転倒 |
| 2022 | 重量物取り扱い腰椎圧迫骨折 | 休業 | 重量物 | 腰痛 |



私生活中も含め、「安全人間」であることを浸透させていく

1. 「無災害」という統一目標の下、業務形態を同じくする部署が部会を形成し、それぞれの実態に即した安全活動を推進。
2. 2006年2月2日以降、無災害継続。
3. 今後も東レだけでなく、構内で働く全ての人の安全確保、更には地域の安全に貢献。

ありがとうございました